

Market Insight

2026年8月3日（月）

潰えた“円安モメンタム” 根強い高市円安 1ドル160円ベッセント・シーリング刻んだ日米協調介入

高市首相の消費税減税表明直後の政府・日銀の円買い為替介入を援護射撃するように米財務省が異例の協調介入に踏み切り1ドル160円ベッセント・シーリングが刻まれ1ドル170円の円安モメンタムは潰えた。だが、積極財政の看板を降ろさず日銀来春4月QT（量的引締め）停止を断行すればドル/円は150-160円レンジで高市円安ムードが延命しそうだ。

日米協調介入が剥いだ投機筋の1ドル170円説

「The yen appears to be significantly undervalued（円は著しく過小評価されている）」一。ベッセント米財務長官が30日のFOXビジネスのインタビューで過度の円安に言及し、政府・日銀の円買い為替介入効果を支援した。30日のNY外為市場でドル/円は157.80円と2カ月半ぶり円高水準をつけ、介入による円急伸前より5円程度円安が是正された。しかし、7月31日12:00すぎの東京外為市場でドル/円は160.90円近辺へと押し戻され、介入効果は今春4月末の大型連休前後の11.7兆円の為替介入時と同じように短命に終わりそうだと市場は高を括った。

だが、その慢心リスクを突くように翌31日NY外為市場で米財務省が異例のユーロ売り・円買いの日米協調介入に踏み切り、日米通貨当局は1ドル160円ベッセント・シーリングを刻んだ。そして、ドル/円は200日移動平均（MA）割れ、従来のサポートライン週足「一目均衡表」基準線158.12円を割り込み、次のターゲットは月足「一目均衡表」基準線151.78円水準への円高進展が観測され、当座1ドル150-160円レンジでの推移を彷彿とさせる。

トランプ米大統領は8月2日、大統領専用機で記者団から米国が円買い介入で日本に協調したことを巡り「我々は常に日本を支援する」と語り、協調介入の理由を聞かれ「日本が円安進行をうけて少し支援を求めている」と話し、米国も「経済的利益」を得るとし「世界経済にとっても良いことだ」と述べた。つまり、物価高に苦慮する高市政権からの円安阻止要請を受けた協調介入だった可能性が高い。

ベッセント氏は31日、X（旧ツイッター）に「8月末の20カ国・地域（G20）財務相・中央銀行総裁会議で日銀の植田和男総裁に会うのを楽しみにしている」と投稿、日銀の利上げ正常化の遅れが円安の背景にあるとみられ、日銀が9月の次回決定会合に向け利上げ前倒し圧力を強める可能性があり予断は許されない。

それにしても今回の為替介入は、日銀会合の結果発表前という異例のタイミングで実施されたまさにサプライズ介入であった。三村淳財務官が沈黙を守っていたのも市場が油断した隙を突きサプライズ効果を狙っていた証左とされる。

「かなり周到に準備しているようだ」一。ある財務官経験者の一人が7月21日夜、会食の席で為替介入についてこう耳打ちしてくれた。実際、今回急遽実施された円買い為替介入のタイミングはかなり入念に企図され、1) 首相の食品減税の表明と31日の日銀会合の利上げ見送りによる円安の未然牽制、2) 米7月FOMC（29日）議長会見での利上げ慎重論と米2年債利回り低下、3) 7月30日発表の米6月PCE（個人消費支出）デフレーターコア前月比+0.1%予想比下振れ、4) 7月為替介入実績の発表一等、4つの材料を加味した絶妙のタイミングで実施された何より特筆すべきは、高市首相が食料品の消費税1%への引き下げ方針を表明

した直後だったことだ。事実、消費税減税のヘッドラインが駆け巡ると、海外投機筋を中心に日本の財政悪化による財政リスクプレミアム増大を喧伝した日本国債売り・円売りが懸念されていただけに、「円買い介入は高市官邸から円安・物価高の悪循環を阻止すべく円買い為替介入の指示があった可能性」（ある政界筋）である。

そもそも、ヘッジファンドなど海外投機筋は、政府が7月30日に2027年度予算の概算要求基準を決め、成長分野や危機管理投資の要求額上限を取っ払い、食料品減税の表明を財政悪化の円売り材料にする企図があったことは言うまでもない。さらに、物価高に不満を強めた20代-30代の若者層の高市離れによる内閣支持率の低下も円買い為替介入を後押しした可能性がある。日本経済新聞社とテレビ東京が24-26日に実施した世論調査によると、高市内閣の支持率は58%と6月調査から10pt低下し、特に20代-30代の若者層の高市離れが支持率低下の最大要因と指摘される。

インフレ貨幣減価と資本流出「高市円安」

ある米系ヘッジファンド幹部が、「政府と日銀がなすべきは付け焼刃的な為替介入で長期金利急騰と円売りという市場評価を覆い隠すことでなく、市場の声に耳を傾け財政金融政策を国際標準マクロ経済に整合させることだ。39年ぶり円安にも日銀利上げ慎重論を唱えてインフレを放置、長期金利抑制で来春以降も2兆円の国債購入QE（量的緩和）継続などの不作為が150-160円レンジで高市円安を延命させよう」と語る。

本来であれば、未曾有の量的緩和（QE）やマイナス金利など10年に及んだ究極の異次元緩和に幕を降ろし、新総裁の下で“やり過ぎた”金融緩和を徐々に中立状態へと戻すビジョンに沿って、正常化利上げを進めていけば、内外金利差縮小に為替相場は自ずと円キャリー取引の巻き戻し等リパトリエーション（国内還流）を誘発しながら円高サイクルへと転換が促されるはずだ。

ところが、「好事魔多し」一。アベノミクス（安倍経済政策）期に政府と日銀が交わしたアコードが足枷となって日銀がデフレのノルム（社会通念）払拭に沿って進めようとする正常化利上げが遅々として進まず、他国の中銀に周回遅れとなり内外金利差が広がり、円安と物価高のスパイラルな悪循環を招いてしまった。

とりわけ、昨年10月に誕生した高市政権が「責任ある積極財政」でインフレ下の景気刺激へとアクセルを踏み、年初の総選挙「大勝」を追い風に官邸を取り巻く3流リフレ派エコノミストやMMT（現代貨幣理論）から抜け出せない自民党の旧安倍派“財政ポピュリズム政治家らが、「財政でアクセル踏んで金融でブレーキを踏む」政策矛盾を突く。

6月末にまとめられた「骨太の方針」原案から「財政健全化」を外し、「適正な金融政策」を盛り込み、財政悪化と日銀の金融政策の後手リスク（behind the curve）懸念に債券売り（長期金利急騰）・円売り（円安）のいわゆる“骨太ショック”が出来た。



高市首相は“骨太ショック”を否定する一方、インフレ下の減税と370兆円の巨額投資、日銀利上げ見送りなど財政・金融「高圧経済」の矛を収める意向はないようだ。

そもそも、資源高に人手不足、賃金上昇など供給ショックによる「コストプッシュ」インフレ下にあつて高市政権の志向する積極財政と来春の日銀QT（量的引締め）中止の金融緩和策は、需要を刺激する「デマンドプル」インフレ政策に他ならない。当然、インフレが助長され、貨幣価値が減価し円安が進み、円安が輸入物価の上昇を促し物価高と円安のスパイラルが起きる。つまり、MMT（現代貨幣論）に依拠する財政ポピュリズムがインフレと財政悪化を助長し「高市円安・株高」を後押す構図は不変であろう。

一方、日本の「貯蓄から投資へ」の流れがインフレによる貨幣減価と現預金の海外リスク資産シフトの資本流出を促し円安を助長している。2025年10-12月期の資金循環統計によると、12月末時点で家計の金融資産残高は2351兆円と3四半期連続で過去最高を更新、株式等の残高が22.6%増の342兆円と株価上昇が全体の残高を押し上げた。投資信託は21.3%増の165兆円、新NISA（少額投資非課税制度）による資金流入を受け残高が積み上がった一方、現金・預金の残高は1140兆円と全体に占める割合は48.5%と18年ぶりに50%を割り込み、今後インフレ昂進に現預金取り崩し海外リスク資産へとシフトが続けばさらなる円安を促しかねない。

他方、豊富な内部留保を抱える日本の大企業は、慢性内需欠乏症の日本に設備投資など積極投資を控え、海外直接投資に精を出して久しく、こうした企業行動も円安を促して久しい。法人企業統計の年次調査によれば、2024年度の企業の内部留保は637兆円に達し、過去10年で約2倍に拡大した。企業が内部留保を溜め込み、賃上げや設備投資の抑制要因になっているとの批判が巻き起こって久しく、実際、人件費は過去10年で約30兆円増加したものの減価償却控除後の有形・無形固定資産ストックは74兆円の増加にとどまり、内部留保と比べると伸びは鈍い。異例の日米協調介入により1ドル170円への“円安モメンタム”は潰えたが、140円に向けた円高トレンドへの転換は困難視され150-160円レンジで根強い高市円安トレンドが続き、米国発“AI・半導体ショック”に揺れた日経平均は週足「一目均衡表」基準線6万1695円、26週移動平均6万1132円で底入れしたようだ。



お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。本レポートの内容は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。